

WS 2	『吾妻鏡』が語る故事・由緒・来歴			※グループ発表あり オンライン併用
	【定員】35名		【受講料】2年会員・1年会員ともに10,010円 聴講生11,440円	
	『歴史・文学・人間学』【ワークショップ】日本史		【時間】毎回13時15分～15時15分（計7回）	
概要	鎌倉幕府が編纂した歴史書である『吾妻鏡』は、様々な場面で過去の事象を故事や由緒として引用しています。そうした故事や由緒は鎌倉幕府にとってどのような意味を持ち、幕府はどのように捉えていたのでしょうか。『吾妻鏡』が記述する故事や由緒などをいくつかピックアップし、史実を踏まえながら考えていきます。授業は、講師をアドバイザーとして、受講者グループによる発表、質疑を取り入れたゼミ形式で行います。			
回	月/日(曜)	会場	学習内容	講師名(敬称略)
1	10/3(火)	川崎市 生涯学習 プラザ	オリエンテーション・『吾妻鏡』が語る先例・由緒・故実	駒澤大学・京都芸術大学講師 角田 朋彦
2	10/24(火)		平将門—東国において謀叛を企つ	
3	11/7(火)		藤原秀郷—兵法・流鏑馬・故実を伝う	
4	11/21(火)		平貞盛・維茂—東国では語られない平氏の祖	
5	12/5(火)		源頼義・義家—奥州征伐の祖	
6	1/16(火)		三種神器—西海に持ち出された天皇の証	
7	1/30(火)		総括・幕府の先例となった草創期の事象	
連絡事項	テキスト『吾妻鏡』については、コピーを配付して対応する予定です。第2回以降の発表については、グループごとに参考文献を提示します。			